

先人たちの声

北九州モデル導入の**実際**を聞きました

社会福祉法人健美会わかば 特別養護老人ホーム

第二わかば

入所84名/短期入所16名
北九州市八幡西区香月中央1-3-1

令和4年11月に開設。SDGs、ICT化、ノーリフティングケアを促進するとともに、地域福祉の推進や地域貢献活動などに力を入れている。



介護主任
高橋さん

施設長
岡山さん

介護副主任
岩下さん

北九州モデル導入の主な取組内容

- **見守り（夜間巡回）**
【取組】 見守りセンサーの有効活用等
【効果】 夜勤帯のラウンド回数半減（ラウンド間隔2時間→4時間）
- **記録**
【取組】 利用者情報ファイルの整理方法見直し等
【効果】 1日あたりの作業時間50%以上減
- **周辺業務（トイレ掃除）**
【取組】 掃除道具の見直し
【効果】 1日あたりの作業時間30分減 など



北九州モデル導入の流れ
(センターによる伴走支援)

	R5	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6	1月	2月	3月
準備 キックオフミーティングと今後の流れの共有		■										
調査 センターによる業務量調査と結果報告会		■	■									
検討 課題抽出と解決策立案に向けた意見交換				■								
実践 取組の実施/センターとの意見交換/振り返り					■	■	■	■	■	■	■	■

1 北九州モデルに取り組もうと思ったきっかけは？

介護現場での人手不足が深刻化する中で、職員の負担を少しでも減らし、利用者にとって質の高いケアを提供し続けるためには、**介護テクノロジーの活用や業務のムダをなくす取組をしていかねば**と考えていました。そんな折、北九州モデルの話があり、**これをきっかけに将来に向けて動き出そう**と思い、取組に参加することにしました。

4 今回の取組で役に立ったことは？

なんとなく「業務が大変」「忙しい」といった状況が、業務量調査により見える化することで、**業務のムダやムリを取捨選択**することができました。また、**職員間のコミュニケーションや現場からの積極的な発言も増え**、新たな取組や介護テクノロジーの導入を進めていけるようになりました。そして何より**職員の笑顔が増えました**。

2 職員との合意形成はどのように行いましたか？

まずは主要メンバーで**北九州モデルの概要や自施設として取り組む目的を明確**にしました。そして、伝える側の理解を深め、意思統一ができた上で、現場へと伝えていったことで、改善活動へ取り組む意義やメリット、今後の流れなどについて**職員全体が統一した考えを得**ることができました。

5 新たな取組など、今後の方針は？

職員間での連携を強化するための**インカム導入**や**服薬支援システム導入**による、服薬管理の負担軽減と誤薬防止を目指しています。また、**音声入力**による記録時間の短縮、**コミュニケーションロボット**を活用したレクリエーションの拡充を予定しています。そして、生まれたゆとりを活かし、更なる**ノーリフティングケアの促進**を目指しています。

3 取組にあたり壁になったことは？

介護テクノロジーの導入や業務内容の見直しに伴う、業務の変更や新たな機器の使用法習得に苦労しました。そこで職員同士で声を掛け合い、「**まずはやってみよう**」「**機器に何度も触れ、皆で慣れていこう**」「**わからないことは隠さず互いに教え合おう**」としたことで、定着を図ることができました。

6 これから取り組む施設へのアドバイスを！

取組を進める中で、一時的に負担が増えたり、費用がかかったり、新しいことに慣れるまでに苦労することもあるかと思いますが、**かけた苦労や費用にも増して、得られる効果は絶大です**。これまでの**当たり前を疑い、現場の秘めた声を引き出し、是非とも挑戦**していただければと思います。